

An underwater photograph of a brown trout swimming in a stream. The water is clear, and the background is filled with a dense network of fallen logs and branches, creating a complex habitat. The trout is positioned in the lower half of the frame, facing right. The text is overlaid on the image.

手作り魚道による釧路湿原のイトウ個体群復元

釧路自然保護協会

1

【背景】 国営総合農地開発事業により設置された落差工がイトウ、サケ、サクラマスなどの魚類の遡上障害になっている。

下流： 4基の落差工が遡上障害



上流： 豊富な産卵適地



- ・9基の落差工のうち、5基は2018年～2019年の地域住民等との協働で魚道整備済み。
- ・上流には残り4基が存在。上流の4基の落差への魚道整備により産卵可能な河川区間が約2,100m(現在)から約8,200mに増加する。
- ・産卵適地の増加→産卵数・生息魚類の増加→希少鳥類など上位捕食者の餌資源確保につながる。

サクラマスも遡上困難

【これまでの取り組み】

- ・2018年 4基の魚道整備
- ・2019年 1基の魚道整備（北海道e水プロジェクト&ほっくー基金助成）



【事業目標】

「シマフクロウ・イトウなどの生き物が暮らし、
人々に恵みを持続的にもたらししてくれる湿原をめざして・・・」

= 『釧路湿原自然再生全体構想』“目指すべき姿”より

**絶滅危惧種イトウと水産重要種（サケ、サクラマス）の
自然産卵個体群、絶滅危惧種シマフクロウ等希少鳥類の
個体群復元、本来の湿原生態系復元**



【事業効果のイメージ】



【事業評価】

表1. 事業対象河川におけるイトウ産卵床数の変化（釧路市立博物館調査）

（※A川はB川の支流。乱獲を防ぐため河川名は公表していない。）

	B川上流	B川下流	A川（魚道整備河川）	合計
2016年	3	22	4	29
2017年	1	20	3	24
2018年	2	19	2	23
2019年	2	25	18	45



2019年産卵遡上したイトウのペア

- ・ 2018年の魚道整備により2019年春からイトウが上流で産卵するようになり、産卵床数が大幅に増加した。
- ・ 2020年と2021年にさらなる4基の魚道整備により、産卵床数がさらに増加すると予測する。

【事業評価】

表2. 事業対象河川におけるサケ産卵床数

	B川上流	B川下流	A川	合計
2019年	25	1,118	32	1,175

- ・ 落差工が遡上障害となり、A川へのサケの遡上は少ない。
- ・ 魚道整備によりA川における産卵数の増加を予測。



表3. 事業対象河川におけるサクラマス産卵床数

	B川上流	B川下流	A川	合計
2018年	未調査	未調査	241	241
2019年	152	12	437	601

- ・ 落差工が遡上障害となり、A川上流へのサクラマスの遡上は少ない。
- ・ 魚道整備によりA川におけるサクラマスの産卵数とヤマメ生息尾数の増加を予測。



【実施手法】

魚道整備イメージ

施工前



施工後



(2019年11月に整備した魚道)

- ・木組み階段式魚道の設置 (※工法は落差工・明渠施設等の構造に応じて調整)

2020-2021年に魚道整備予定の落差工



撮影 大本